

[Action Orchestrator] – アトミックワークフローとしてアトミックアダプタ/アダプタをインポートする方法

内容

[概要](#)

[背景説明](#)

[アトミックワークフローとしてアトミックアダプタ/アダプタをインポートする方法](#)

概要

このドキュメントでは、アトミックアダプタ/アダプタをアトミックワークフローとしてインポートする方法について説明します。

背景説明

このドキュメントに従って –

<https://docs.cloudcenter.cisco.com/display/ACTIONORCHESTRATOR/Action+Orchestrator+5.0.0>

サポートは、アトミックアダプタまたはアダプタに関する情報をアトミックワークフローとして顧客に提供することを前提としています。これには、Azure、Vmware、Kubernetes、DNAC、UCSDなどが含まれます

アトミックワークフローとしてアトミックアダプタ/アダプタをインポートする方法

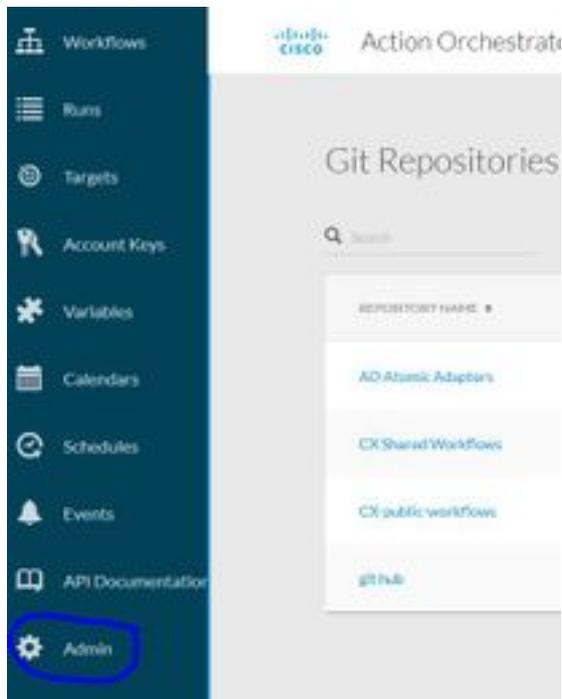
これは、アトミックアダプタをインポートする手順です。この録画を表示するには、[ここをクリックしてください](#)。

[録画を再生](#)

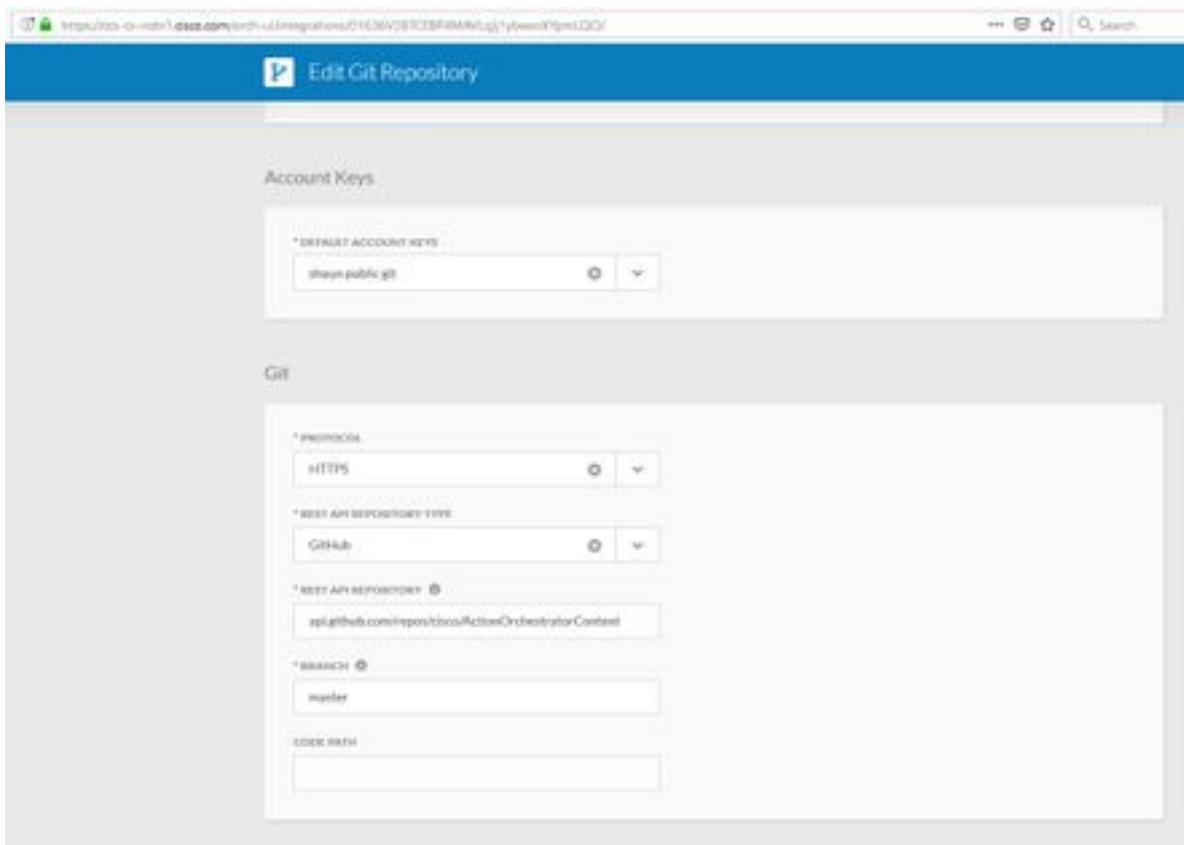
パスワード : 7NqHgvXV

注：インポート/エクスポートフォルダの変更により、AOバージョン5.0.1以降である必要があります。

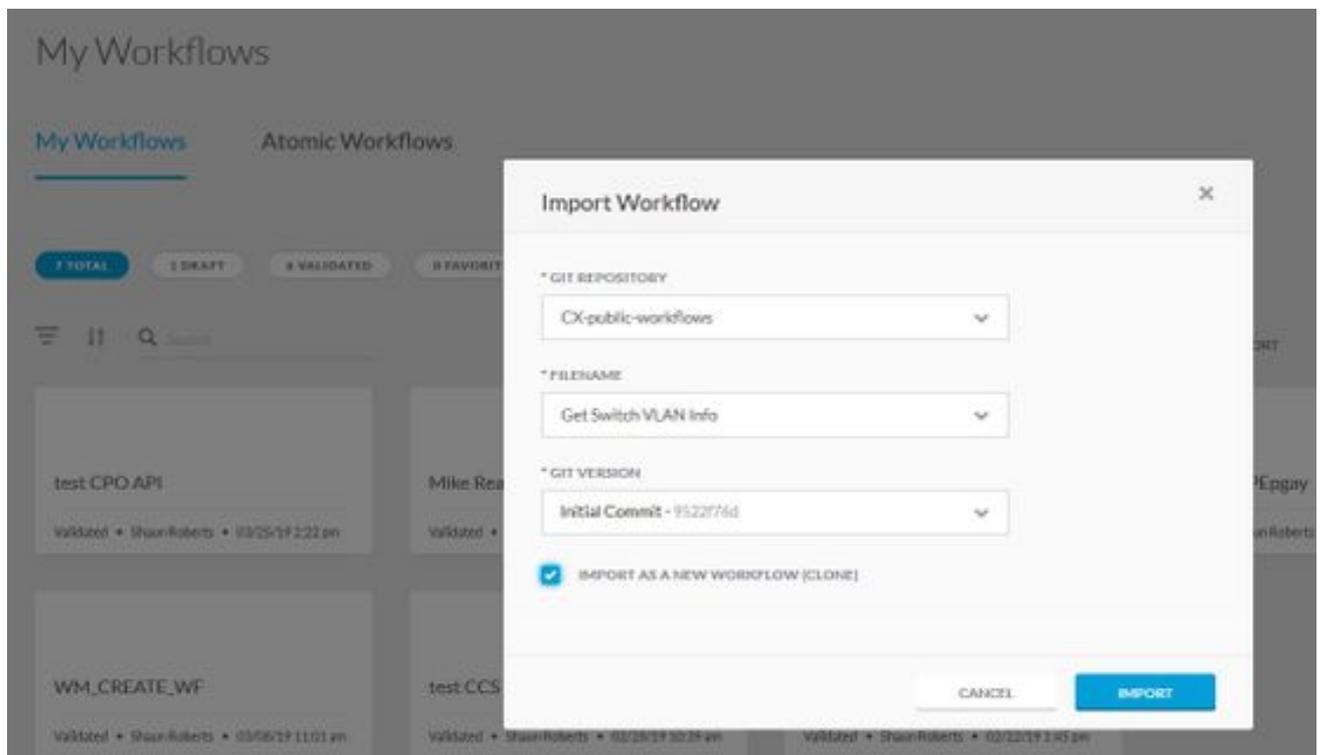
1. このgitサイトに移動します : <https://github.com/cisco/ActionOrchestratorContent>
2. gitユーザアカウントがない場合は、作成する必要があります。
3. 図に示すように、Action Orchestratorを開き、[Admin]ページに移動し、[Git Repositories]リンクをクリックします。



4. [NEW GIT REPOSITORY]をクリックします。
5. レポに表示名を付けます。
6. [Default Account Keys]で[NEW]をクリックし、[Git Password-Based Credentials]を選択します。
7. アカウントキーに表示名を付け、ステップ#2で作成したgitユーザとパスワードを入力します（すでに存在する場合は、作成する必要はありません）。
8. プロトコルについては、[HTTPS]をクリックします。
9. [REST API REPO TYPE]で[GITHUB]を選択します。
10. REST API REPO入力はapi.github.com/repos/cisco/ActionOrchestratorContentに入れていきます。
11. 分岐をmainのままにしてください。
12. 使用する内容に応じて、コードパスを入力する必要があります。アトミックアダプタ（ACI、UCSD、Kubernetesなど）を入手したい場合は、コードパスを/atomic-actionsとして置いてください。ワークフローの例を取得する場合は、コードパスを/workflow-examplesに置く必要があります。両方が必要な場合は、2つの独立したgit接続を作成する必要があります。



13. [送信]をクリックして、再発注接続を作成します。
14. 次に、アトミックアダプタをインポートします。
15. [ワークフロー]領域をクリックします。
16. [Import] をクリックします。
17. 作成した**GIT REPO**を選択します。
18. 次に、インポートする適切なファイル名 (アトミックアダプタ) を選択し、必要なバージョンを選択します。
19. [IMPORT AS NEW WORKFLOW(CLONE)]というボックスをオンにします。
20. [インポート]をクリックします。



21. ワークフローはインポートされ、ツールボックスの[アクティビティ]で使用できます。

注：ワークフローは、[ワークフロー]領域の[アトミックワークフロー]見出しの下にインポートされます。